

子どもたちにとって 最善の教育をもとめて

教育委員会第3次交渉

教育委員会第3次交渉を2月12日、県民文化会館3階の特別会議室でおこなわれ、教育文化運動部、生活福祉運動部、県連執行委員、各支部の代表が参加した。



あいさつする宮下和己教育長

この第3次交渉は、各部署の統一要求であった「障害者差別解消法」で、県教委が具体的なとりくみ計画をまったくおこなっていないことと第2次交渉がとん挫したもので、交渉の冒

頭、障害児を地元学校に受け入れる準備をすすめる、障害児の就学が当然のように支援学校であるかのような風潮を払しょくするとの回答がされ、教育にかかわる交渉がスタートした。

さらに、進路保障についての要求では、一部地域に集中する県内学区廃止の問題、部落の子どもたちの受け皿である学校における募集定員の問題、就職差別の問題などを指摘し、県教委をはじめ各教育現場におけるとりくみの強化を求めた。

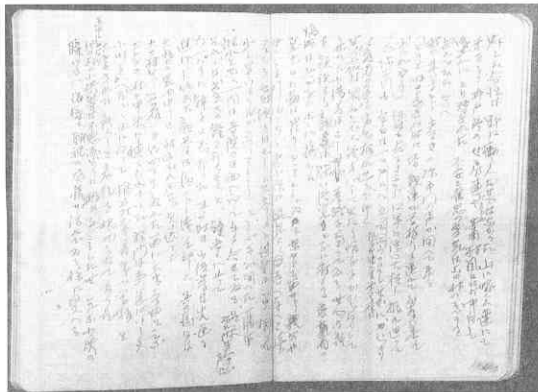
また、部落の子どもたちを支援している学習支援推進教員（加配教員）の配置や活動の課題、来年度における加配教員の推移などを指摘し、全体の加配数においては、交渉当日（今日）に担当者が文部科学省に陳情しているが、現時点では具体的な数字が示されていないとの回答にとどまった。

其の夜は幾度となく袴をハイて見たり帽子をかむったりして喜んだ小供等は、モー夢路をたどっている。無心な顔を凝視する親たちは深い悟覚と子に対する愛着の涙は吾が子のホ、に〇ちた。

翌十一日の朝はやはりドンヨリとしている。東からも西からも父や母の手を引っぱりながら飛ぶ様に健気よく寺へ寺と集まってくる。七時頃にはモー全部の子供等は揃った。少し早いうだが集まりましよう、と云う声が聞へた。誰となく一同は寺院の正面に向かって手を合わせている。そこへ弥工門は大きな声でそれでは井立ちの鐘を打ち

ますと、鐘堂に上つて力一パイに鐘を二つ、三つ打った。其の時は小供等は先途に進行し始めた。親等は後から続いて行く。其の後は大勢の家内中は村はずれ迄で見送った。

この村から学校へは約四丁を離れた西に寺田と云ふ大字の村の中央に建てられていた。校門は街道にソータ小川をへだて、北に向かつて掖上村南尋常小学校と大書された新しき表札を掲げられてあった。道中に出会ふ他の村の小供等は不思議そうに眺める。こうした無(ママ)気な小供の瞳にさへ侮辱と賤視の感情が潜んでい



『備忘録』(部分)

最後に、子どもの貧困問題についての交渉がおこなわれ、部落の子どもたちを取り巻く状況として、親の就労状況や家庭環境における問題と子どもたちを取り巻く実態把握をもとに具体的な施策をすすめる必要性を指摘し、県教委や各教育現場におけるとりくみの強化をすすめるという回答で第3次交渉をおえた。しかし、県教委への統一要求はまだ残されており、県連教育文化運動部で引きつづき交渉をすすめる。

連載 (2)

よき日のために

徳川政府が強いた厳格な階級政策の効果は、今も残る特殊部落民賤視の観念は、批判的精神を欠く人々の間に今も根強く残り、恐ろしい拘束力を発揮しつつある。この空虚な社会的規範は、現実においてもその例証のいとまないほどに、彼のあらゆる経済的活動、社会的向上知識の獲得を防げつつあるのである。

これに対して、政府や慈善家が種々の解放案を提供し、かつ実行を試みた。しかし徹底的效果はいまだ見ることが得ない。衛生組合や青年会や処女会の設定はそれ自身において決して悪くないが、枝葉であるといわれないこともなからう。私は、種々の解放案が普通民本位もしくは支配者の本位の気分を脱しないかぎり、その努力の効果の少ないことを信ずる。

特殊部落民の解放の第一原則は、特殊部落民自身がいずれも自らその社会的地位を認識し、力ある集団運動を試みた結果にほかならない。その最も顕著な例を成すものは、平安朝末期より興起した武士階級である。彼らは、家人とよばれた賤民の地位より漸次に当時の支配者階級たる貴族を

たおして、これに代わったのである。知識と勇気と情熱とを有する部落出身の少壮者が中心となり集団を作り、諸種の運動に従ったならばその効果は重大であろう。特殊部落民の感情がいかに無意義な歴史的伝統であるかは、さきにしば述べたごとくである。この伝統的観念を破壊するには、自ら集団的見解を発表し、かつ要求するところがなければならぬ。

第二には、現在において苦しむものが資本主義の鞭に悩む労働者階級ばかりでないとともに、特殊部落の人々ばかりでもないことがよく徹底せられねばならぬことである。その地位を社会的に考察すれば、両者はともに経済的弱者であり、被搾取者である。搾取者なく迫害者なきよき社会を作るために、両者は親密なる結合と連带的運動をなす必要がある。

所詮、特殊部落民の徹底的解放は、社会改造の重大なる要素である。社会改革の大業は単に「プロレタリア」階級の解放をもって終わるべきでない。それは必ずあらゆる苦しめる人々を包含せねばならぬ。尊き自由は悩める人の全部が獲得せねばならない。特殊部落の人々が一千年来担うてきた迫害を思えば、涙と怒りと恥とを感じざるを得ぬ。

(次号につづく)